

非らばれば変更改廃することを得ず、
第四條 党の細則は総務会に於て之を定む、

日本農民黨

宣言

三千年日本歴史に光彩を放つべく、日本農民黨は生れ、陰惨なりし我が農民史は、今や栄光赫
 耀たる第一歩を大地の上より強く印した、
 回顧すれば、久しき封建時代を通じて、我等の祖先は暴虐なる壓制に堪えかね、時に一揆暴動
 を起し、たゞ結局は黙々管として苛斂誅求に忍従せねばならなかつた。四民平等を標榜せる明治
 の改革も、遂にこの悲惨なる現実を覆すことは出来なかつた。併し、故に我等はこの久しい苦難の閉下
 若欠乏と闘ひ、團結的の實力を養成し得たりてある而して、この力を普通運送する實施を機会とし
 て、今や政治的に大革新の機運を作興したるである、
 蓋し政治の要諦は國民生活の安定にある。然るに國民の大多數を占むる我等は、経済的に、精神

的に安定を缺き、貧富の懸隔益々甚しくして、勤勞するものその端に安ぜざる現状である。而してこ
 の事實は全世界共通の、憐れにしてこれを解決の爲め社会改造の諸種の理論と行動は、それれれ
 特殊事情に應じて生れた。即ちドイツに社会民主黨發達し、イギリスに労働黨勢力を得、ロシ
 アに於てボルシェビキの独裁行はるるか如きは、各各それれ特殊事情の存在するか故である、
 而して我日本は過去三十年の傳統を押し、世界諸民族興亡の跡を賤視して、日本人たるの正し
 き誇りを持て、東亞の「獨天惠」を、自然の禮に、曲直を正し、大木として大多數の農民を擁して發展
 し、来たのである、こゝに我等は日本の國情に照して、日本農民黨發達の必然と、その發達の妥當性
 とを見らるのである。翻つて日本。政界を見れば、現実的政治勢力を學手握する、既成政黨の一部特權
 階級の利益のみを代表し、党利党界に膠着して、多數國民の休戚並に國家の前途を顧みること
 として、今やその黨派の何たるを問はず、悉く國民多數の信望を全然失墜するに至つた。
 一方新興階級の興望を、買ひ起して、起つてと稱せらるる労働農民黨は、矯激なる直認的共産
 黨的色彩濃厚にして、これ亦大衆の信賴を克ち得るに足らず、一系系民衆は斯る參政權
 を擁して、実に端緒に迷ひざるを得ぬのである。かくの如く人は、國家國民の前途計に深憂を
 感ずる。此の混沌の間、我等は一大抱負と、經綸を携ひて、日本農民黨の旗を擧げたのである、
 眞に國を愛し、國民の前途を憂ふものは、来つて我等が宿昔より遂に得たりし理想を行